

(仮称) 静岡市がん対策推進計画(案)に係るパブリックコメントの実施結果について

(仮称) 静岡市がん対策推進計画(案)に対するご意見等を広く募集するため、パブリックコメントを実施しました。

1. 意見募集期間

令和2年11月27日(金)～令和2年12月28日(月)

2. 意見募集方法

担当課への持参、郵送、FAX、市ホームページからの電子申請

3. 募集結果

受付件数 304件(持参245件、郵送32件、FAX 3件、電子申請24件)

4. 提出者の属性

① 性別(人数)

女性	男性	無回答	合計
154	48	102	304

② 年代(人数)

19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答	合計
39	71	28	31	47	14	15	59	304

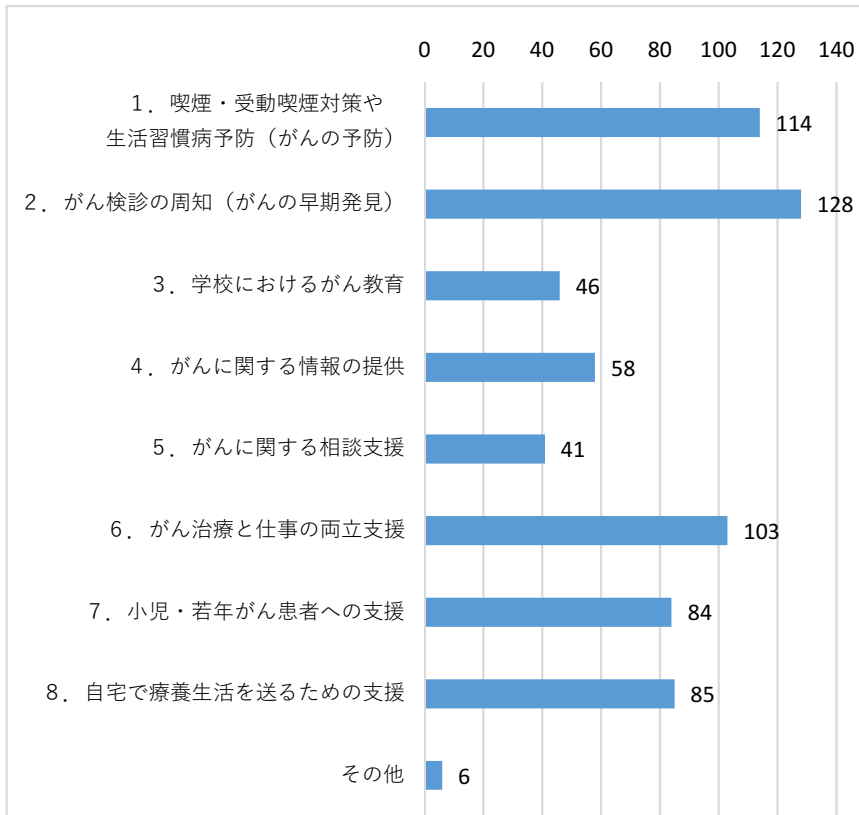
③ 職業(人数)

会社員・ 公務員	自営業	専業主 婦(夫)	学生	パート・ アルバイト	その他	無回答	合計
85	12	12	101	13	18	63	304

(※) その他の内容
保育教諭、看護師(2名)、無職(3名)、団体職
員、契約職員、無回答(10名)

5. パブリックコメントの設問に係る集計

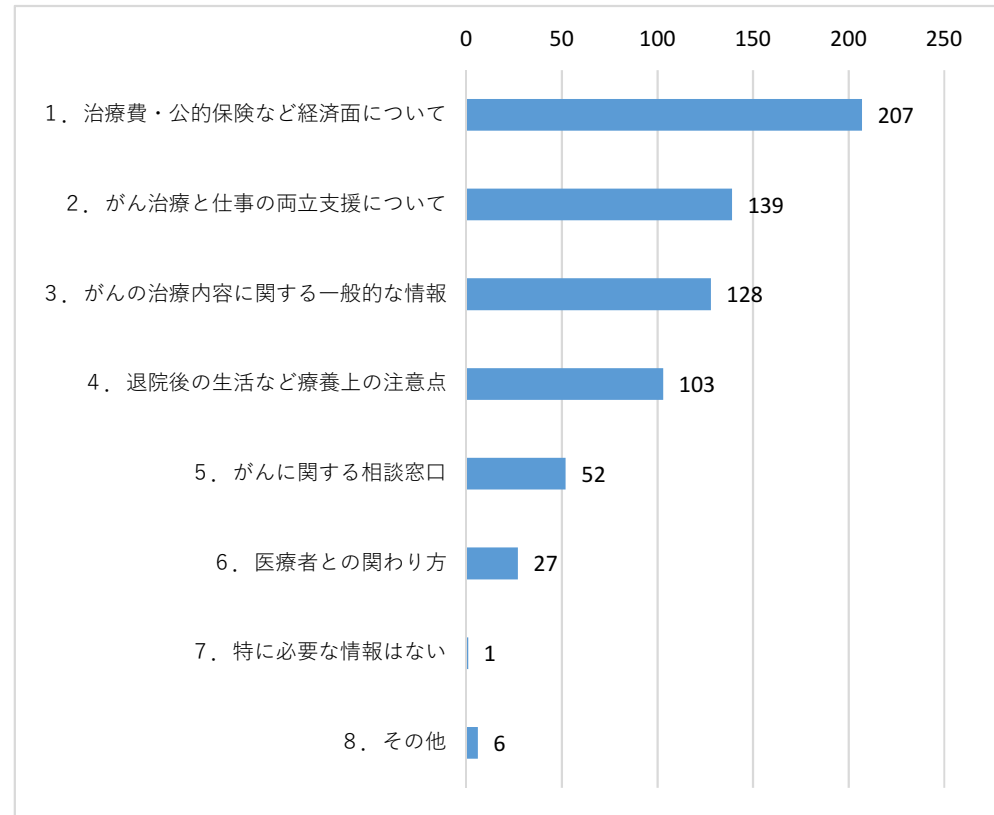
(1) あなたは、がん対策について、静岡市にどういったことに力をいれてほしいと思いますか。この中から3つまでお答えください。



(※) その他の内容

医療機関の充実、検診の種類・充実、がん検診の無料化、検査の費用助成、検診の助成拡大（種類や費用）、看者の世話をする家族のケア

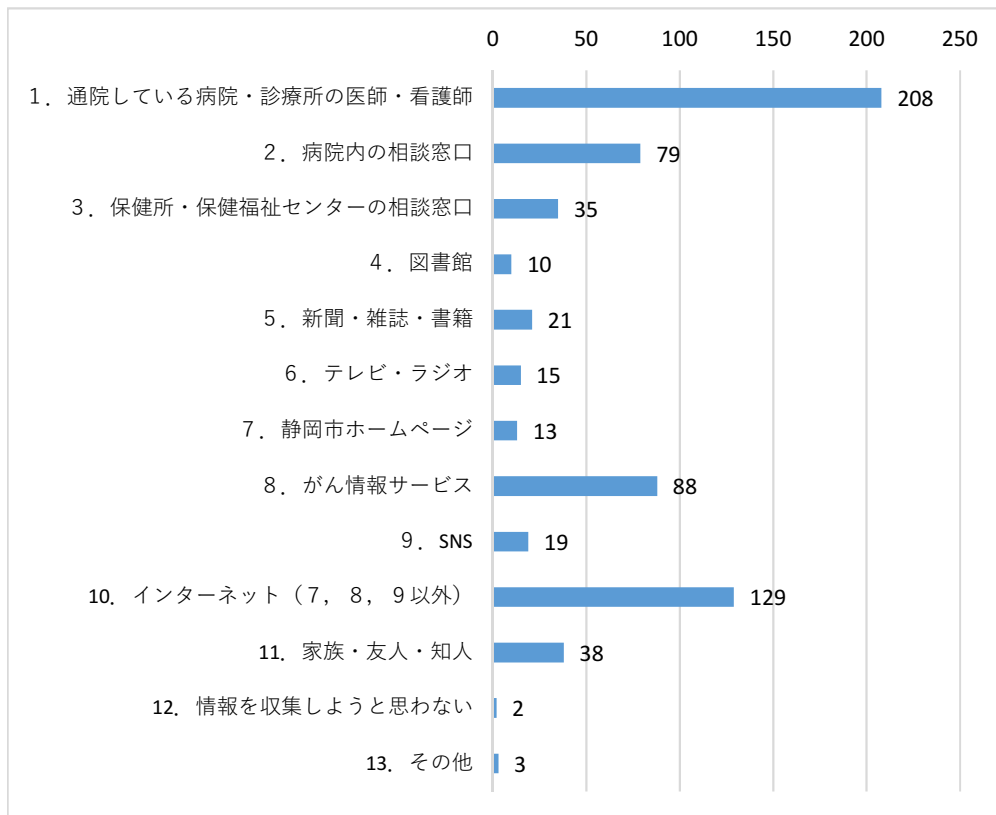
(2) あなたは、がんと診断されたら、どのようなことを知りたいですか。この中から3つまでお答えください。



(※) その他の内容

3（治療内容）の詳細な情報、セカンドオピニオン（2件）、余命（5年・10年生存率）、容姿への影響（髪、傷など）、心のケアの相談窓口

(3) あなたは、がんと診断されたら、がんに関する情報をどこから収集しようと思いますか。この中から3つまでお答えください。



(※) その他の内容
保険屋、産業医、自分の持っている教材

6. 計画案への反映状況

(1) パブリックコメントの設問に係る集計の反映状況

・静岡市に力を入れてほしいことの上位はがんの予防と早期発見でした。これらの項目は設定した成果指標の達成に向け、期待に応えられるよう取組を推進していきます。

・がんと診断されたときに知りたい情報の集計結果については、つなぐ・支えるプロジェクトにおいて作成するガイドブック等の内容を検討するときに活用いたします。

・がんに関する情報の入手経路について、通院している病院の医師等を除くとインターネットが上位でした。つなぐ・支えるプロジェクトにおいて作成予定の特設ページにおいて正しい知識の普及啓発に努めます。

(2) 自由記載欄の反映状況

A：ご意見を計画案に反映させるもの	8件
B：ご意見の内容が既に計画案に含まれているもの	20件
C：今後の取組みの参考にするもの	27件
D：計画案に賛同・期待するもの	16件
E：その他（ご質問など）	18件

合計 89件

(注) 自由記載欄が無記入のご意見があるため、受付件数の総数(304件)と一致しない。

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	反映状況
パブリックコメントの資料に対するご意見				
1	計画(案)全体について	がんが2人に1人罹患する病気であること、しかし早期発見で治療が可能であることを認知している人はまだ少ないと思うので、良い取組であると思います。 資料も箇条書きで見やすかったです！ ↑推進計画案の部分	取組みに賛同していただきありがとうございます。	D
2	①計画の概要について ②今後の方向性について	①表の「がん計画」「総合計画」の意味がよく分からない。「がん計画」は、「がんになる計画？」みたいに取れる。表は必要あるか ②市がここまで支援して下さるのであれば、凄くありがたいと思う。	① 御指摘の表については、パブリックコメント資料用に作成したものであり、計画本文にそのまま記載しないものではございますが、資料を作成する際には、誤解が生じない表現となるよう今後も引き続き注意してまいります。 ② 計画案に賛同していただきありがとうございます。	D
3	現状・課題について	生涯のうちに2人に1人ががんに罹患する事や、4人に1人ががんで亡くなっている事、静岡市が実施するがん検診受診率が減少している事を多くの市民が知らないと思います。これらの情報を明確に示し、1人1人が自分事と捉えるよい機会になると思います。	計画案に賛同していただきありがとうございます。本計画の策定が市民一人ひとりが健康増進に取組むよい機会となるよう施策を推進してまいります。	D
4	現状・課題と今後の方向性について	・現状・課題を見て、現在の状況を把握することができた。(とてもわかりやすかったです。) ・今後の方向性の取組も理解できた。	計画案の趣旨をご理解いただきありがとうございます。	D
5	今後の方向性について	[予防]と[早期発見]に向けた取組方針を市が明確に打ち出すことで安心感をおぼえます。今後の相談体制・情報提供体制の充実に期待します。	計画案に賛同していただきありがとうございます。本計画に基づき、がん対策を総合的に推進してまいります。	D
6	計画のポイントについて	今後の高齢化社会、一人暮らし増を考えると、市がリードしながら市民を支えるということに共感いたします。がんは不治の病から治る病気になっていくと考えられるので、共生を応援することに賛同いたします。	計画案に賛同していただきありがとうございます。	D
表紙に関するご意見				
7	スローガンについて	オール静岡とは何か。「関係者が一丸となり全ての人でがん対策を推進していきます」ではダメなのか。	オール静岡とは、計画(案)の表紙に記載したとおり、関係者が一丸となって取り組むことを指す言葉であり、本市の最上位計画である総合計画にも記載されていることから、静岡市らしさを表すことができる表現であると考え採用したものです。	E

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	反映状況
8	スローガンについて	未だに良薬が出来ない病気であり、死因の1位となっている現状の中「すべての人に健康と福祉を」に関する事に積極的に取り組みたいと思っています。市民一人ひとりが取組を啓発する事、一人ひとりに浸透する事が大事だと思うので、もう少し慣れ親しめるやわらかい感じでも良いのかなと感じました。「病は気から」という言葉もありますので、がん患者となってしまう方に、市民全員が心に寄り添う事が出来る市になれるよう心掛けていきたいと思ひます。	スローガンは、生涯のうち、二人に一人ががんに罹患すると推計されていることに由来しています。ふたりにひとりが「がん」に罹患することを自覚し、自分ごととして、市民一人ひとりが予防・早期発見に取り組むよう啓発するとともに、周囲のがん罹患患者に対しても、他人事ではなく、ここに寄り添った支援をすることを目指す姿を表したものです。本スローガンの趣旨を踏まえ、御指摘のとおり市民全員ががん患者の心に寄り添う事が出来る市になるよう取組を推進してまいります。	C
第1章に関するご意見				
9	計画期間について	6年間の計画は長いと思う。	以下の2点の理由により、本計画の計画期間は6年間で適切と考えて策定を進めております。 ① 本市の最上位計画である静岡市総合計画(第4次・前期)の終期とあわせるため。 ② 国・県が策定する計画の期間が、がん対策基本法において6年間と定められており、それを参酌したため。 なお、計画の推進に当たり、計画期間の中間年度に中間評価を実施する予定です。	E
第2章に関するご意見				
10	がんそのものについて	がんが、死因の第1位であることや、半分の人がかかるのは誰でも知っていますが、がんはどのような理由や仕組みで発生するのかも知りたいです。	御指摘を踏まえ、6ページに「がんに関する基礎知識」のコラムを追加しました。なお、がんのリスクを上げる生活習慣については18ページに記載しております。	A
11	がんそのものについて	そもそも悪性新生物(がん)の定義はなにか。どうやっとなるのか。		
12	図2～図8について	2章の図2～図8のデータは2015年のものですが、他は2019年あたりのものを使っていました。図2～図8のデータも、もう少し最近のデータの方がよいように思いました。膵臓がんなどは微増ですが、上位5位に入りますし、注目させてもよいかと思ひました。	5ページ以降に掲載している図2～図8のデータは、国立がん研究センターや静岡県が公表している最新のデータを使用しておりますが、出典元がその他のデータと違うため、年にずれが生じております。膵臓がんについては、罹患率等のグラフにおいて掲載しております。図4の表には記載していませんが、これは出典元に膵臓がんの罹患患者数のデータが掲載されていないためです。	B

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	反映状況
13	生存率と死亡者数について	がんの生存率は年々上昇しているのに、死亡者数の割合が1番高い理由を書いてもらいたいです。	御指摘を踏まえ、14ページに「どうしてがんによる死亡者数は増えているのか」のコラムを追加しました。	A
第3章に関するご意見				
14	基本理念・基本目標について	市が掲げる基本理念・基本目標は納得感あるものであり、賛同します。	計画案に賛同していただきありがとうございます。	D
第4章小分野「生活習慣の改善」に関するご意見				
15	タバコ対策について	がんの予防対策として、喫煙がその要因の最大のリスクであることを表現しているのであれば、公共の施設・飲食店等での対策(全面禁煙等)を徹底推進していくなどの方針・実施性確保を盛り込んだ方が良いと思います。	本市の受動喫煙防止対策は、国の法令や県の条例の趣旨を踏まえながら支援制度の周知、事業者への周知啓発や指導助言に取り組んでいます。 また、喫煙対策については、喫煙防止教室等に取り組んでいます。	B
16	成果指標について	女性の喫煙率の減少についても数値化してほしいです。	「【図23】禁煙希望の有無に関するアンケート調査」では「やめたくない」人の割合は11.2%であり、その理由として、たばこを吸うことで心理的な安定感が得られストレス解消となることや、食後の一服等生活の一部となっており、やめられない人もいる現状があります。 一方、平成31年の全国の女性喫煙率は8.0%であり、平成19年以降ゆるやかな減少が続いています。本市は、平成31年実績8.0%で全国平均に近いことから減少の傾向を全国と同様ゆるやかに進むことが考えられます。こうした状況から成果指標を、現状値より少しでも減少させることを指標としました。	C

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	反映状況
17	がんを予防する生活習慣の普及啓発について	<p><早期発見>に対しては多くの企業が従業員に対して健康診断や人間ドックの受診を福利厚生の一環として認めています。<予防>に対しては各個人に任せている状況だと思います。昨今の健康ブームの中、個人でウォーキング・ランニング、またはジム通いを行っている市民が増えてきていると思いますが、現実的には一部の市民であり、大多数の市民が行っている状況ではありません。『がんにならないための健康な体づくり』の一環として市民の日々の運動や健康づくりを後押しし、さらに継続できるような補助や助成金があれば、多くの市民が自己の運動や健康づくりに取り組めるのではないのでしょうか。また、それががんの予防にもつながると思います。将来的にはがんはもとより、健康・長寿日本一の静岡市となれば誇らしいです。</p>	<p>がん検診・特定健診の普及啓発活動として、広報紙・市ホームページへの特集記事の掲載、静岡市のがん検診・特定健診についてわかりやすく解説した「成人健診まるわかりガイド」の年1回の全戸配布、商業施設、公共施設等での啓発キャンペーン、市内9か所ある保健福祉センターで開催している健康教育・健康相談事業等により、広く周知啓発しています。</p> <p>そのほか市民一人一人に対して、がん検診の受診を促すよう、計画41ページに記載の「がん検診の個別受診勧奨(ナッジ理論を活用)」を送付したり、企業向けには、「受けていますか?～年に1回の特定健診・がん検診～」の市政出前講座を設けており、がんの予防や健康づくりへの取組を促しています。</p> <p>本市では、健康づくりのきっかけとして市民が自ら「食事・運動・歯・体重測定」に関する目標を決め取り組む、「元気静岡マイレージ」を実施しています。</p> <p>また、本市では、「スポーツ・イン・ライフ」という概念を新たに取り入れました。これは、競技スポーツだけでなく、日常において意識的に行う生活活動、例えば、通勤時の階段昇降やウォーキングなどの軽運動もスポーツであると定義し、スポーツが特別なものではなく、それぞれのライフスタイルに応じて日常生活の中にとけ込み、親しまれている状態を目指すものです。この「スポーツ・イン・ライフ」を推進することで健康な体づくりを後押ししていきます。</p>	B
18	がんを予防する生活習慣の普及啓発について	<p>がんによる死亡リスクを下げるのが重要であり、各種予防施策メニューの充実が求められるものの、メニューだけではなく、市民に行動変容を促す具体的な行動(例えば、情報発信の強化や意識醸成を目的とする取組みキャンペーンの開催等)が必要だと思います。</p>	<p>また、本市では、「スポーツ・イン・ライフ」という概念を新たに取り入れました。これは、競技スポーツだけでなく、日常において意識的に行う生活活動、例えば、通勤時の階段昇降やウォーキングなどの軽運動もスポーツであると定義し、スポーツが特別なものではなく、それぞれのライフスタイルに応じて日常生活の中にとけ込み、親しまれている状態を目指すものです。この「スポーツ・イン・ライフ」を推進することで健康な体づくりを後押ししていきます。</p>	
19	がんを予防する生活習慣の普及啓発について	<p>がんになるリスク要因である生活習慣は若年層からの積み重ねが重要だと思うので、企業の若年層の社員を対象とした出前講座などが効果的だと考えます。</p>		
20	食生活改善の推進について	<p>緑茶によりがん予防効果があることを知り、驚きました。意識をして緑茶を飲んでいきたいと思いました。また、夜遅くに食事することが多かったので、なるべく早い時間にバランスの良い食事ができるよう心掛けていきたいと思っています。</p>	<p>計画案の趣旨に賛同していただきありがとうございます。</p>	D

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	反映状況
第4章小分野「がん検診の受診率の向上」に関するご意見				
21	がん検診の検査項目・費用について	本年4月に転勤で静岡市民となりましたが、「がん対策」に対する行政の取組が進んでいることに好感が持てました。 その中で、まずは、予防の一貫として、早期発見することが重要だと思いますが、がん検診を受診するにしても、費用負担が気になるところです。今後、「線虫検査」等比較的安価で対応できる検査や各種助成等があれば良いと思います。	各自治体を実施する住民検診の検診部位、検診方法等については、国がその効果や体に与える影響などを十分に検証した上で、死亡率の減少が見込めるもののみ、各自治体あてにガイドラインを示しております。 本市のがん検診の制度も概ね国のガイドラインに沿って運用しており、「線虫検査」、「血液によるがん検診」等、現行の市のがん検診制度で採用していない検査方法については、国の動向を注視してまいります。	E
22	がん検診の検査項目について	検診を受診しやすい環境づくりの中で、会社や町内での人間ドックや総合検診時に「血液によるがん検診」を取り入れ、希望者は自己負担があっても一緒に検査できるとなればやる人もいると思う。 これによって早期発見にもつながると思います。		
23	がん検診の検査項目について	ガン検診に関して、様々な部位ごとの検診は費用的にも受けやすくなっていると感じますが、全身のガンを発見できるPET検査の受診が費用的に安く受けられたら早期発見出来やすくなると感じています。現在70才以下ですと15万前後の支出となるとかなりハードルが高く受けたいものの躊躇しています。		
24	がん検診の検査項目について	乳がん検診でマンモーを実施していますが、エコーでないと発見できない場合もあるため、エコーも出来るようになるといいですね。		
25	がん検診の検査項目について	子宮頸がんの検診を受けにくいので、血液検査などでわかる検査法が早く確立され検診になってほしい。		
26	がん検診の検査項目について	胃透視は意味があまりないので、苦しい検査はやめてほしい	静岡市の胃がん検診の制度は、胃がんX線(バリウム検査)と内視鏡検査(胃カメラ)の2つの方法から選択し受診することが出来ます。	B
27	がん検診の検査項目について	胃がん早期発見のために、バリウム検査ではなく、内視鏡を含めた選択性にして欲しい。Baは意味ないと思う。		
28	がん検診の検査項目について	がんサバイバーです。「ドゥイヴス法」について知りたいです。市立病院で対応できますか？	ドゥイヴス検査は、MRIを使用して体の広い範囲にわたって、がんや転移を探す全身検査です。現状、静岡市立静岡病院・静岡市立清水病院では対応していません。	E

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	反映状況
29	がん検診の検査項目について	歯の病気は全身の病気につながるので検診に入れてもらいたい	静岡市では、40歳以上の方を対象に歯周病検診を実施しています。	E
30	がん検診の周知について	現在、市のホームページに掲載されている成人検診早見表は大変分かり易いので(特に、年代別に推奨の検診と、自己負担額が記載されている部分)、より多くの人が目にする場所に掲示するなどできると良いかと思いました。(薬局だけではなく、バス停、医療保険の窓口、スーパー等) QRコードが付いていると、より情報にアクセスし易いです。	現在、成人健診早見表が掲載されている「成人健診まるわかりガイド」は、毎年4月に全戸配布しております。今後は、薬剤師会の協力のもと薬局でがん検診等を啓発するチラシを配布する予定です。なお、配布するチラシ、パンフレット等にQRコードをつける予定です。	B
31	がん検診の受診勧奨について	職場での検診機会のない若い世代へ広く周知し、毎年続けて受診することで早期発見につなげるために、前回検診から、例えば2年経っていることを案内するなどのアプローチがあればいいと思う。	市民の方のがん検診の受診を促すよう、乳がん検診、子宮頸がん検診、大腸がん検診では、過去5年間で受診履歴がある方を対象に勧奨通知を送付しています。	B
32	がん検診の受診勧奨について	<受診勧奨>は、受診率向上に必須のもので、無料クーポン発行などは、非常に効果があると思います。その上で、市内の主要企業を巻き込んだ(受診率向上に寄与する取組を行った企業を表彰するetc)取組を入れてみるのもよいのではないかと思います。	本市では、年に1度市内保険者等と情報交換会の機会を設けてがん検診の周知をしています。また、中小企業向けには、「全国健康保険協会(協会けんぽ) 静岡支部」の協力のもと、健康保険組合の被扶養者に対し市のがん検診の案内を周知等を行っています。	B
33	がん検診の受診機会・受診勧奨について	会社では検診を受けさせる義務がある為、勤務している方は多く検診を受けていますが、20才以上の学生や自由業の方の検診が少ないように思います。その人達が受けやすい支援があれば良いと思います。	御指摘のとおり、20才以上の学生や自由業の方など会社等で検診を受診する機会のない人達に対して支援をしていくことは大切であると認識しております。本市の検診は、職場で受診機会のない市民を対象として、がん検診制度を設けており、より多くの方が受診できるように市内約300か所の医療機関・健診センターで受診が可能となっています。さらに、市内の公民館・学校等の施設でがん検診を受診できるように検診車も巡回しております。検診制度は毎年4月に「健診まるわかりガイド」を全戸配布しているほか市ホームページにも掲載しています。 また、肺がん検診は無料としているほか、20歳の女性に対しては子宮頸がん検診、40歳の女性には乳がん検診の無料クーポン券を配布する等自己負担を少なくする等受けやすい環境づくりに努めております。	C

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	反映状況
34	がん検診の受診機会・受診勧奨について	がん検診の受診率の低下の改善が大切です。気楽に誰でも受診しやすい環境整備、たとえば採血で腫瘍マーカーチェック、土・日の受診可能、予約なしでもOKなど、働く世代の受診を促していける取組みや、また、行くのがあたりまえの風潮を、会社・家族間でつくっていきけるとよいと思います。(たとえば、CM・SNSの活用)	職場で受診機会のない市民を対象として、本市ではがん検診制度を設けており、より多くの方が受診できるように市内約300か所の医療機関・健診センターで受診が可能となっています。さらに、市内の公民館・学校等の施設でがん検診を受診できるように検診車も巡回しております。検診制度は毎年4月に「健診まるわかりガイド」を全戸配布しているほか市ホームページにも掲載しています。 なお、働く女性のために「サンデーレディース健診(日曜日検診)」を各区1回ずつ実施しております。SNSを活用してのがん検診受診の啓発は今後も積極的に実施してまいります。	B
35	がん検診の受診機会・受診勧奨について	【がん検診の受診率向上に向けた取組み】 検診をした方がいいとは理解しているものの、一方で大丈夫だろうという過信もあり、がん検診を一度も受診したことがありません。早期発見の重要性の周知や受診しやすい環境整備に期待します。	職場で受診機会のない市民を対象として、本市ではがん検診制度を設けており、より多くの方が受診できるように市内約300か所の医療機関・健診センターで受診が可能となっています。さらに、市内の公民館・学校等の施設でがん検診を受診できるように検診車も巡回しております。検診制度は毎年4月に「健診まるわかりガイド」を全戸配布しているほか市ホームページにも掲載しています。	E
36	がん検診の受診機会・受診勧奨について	がんは、生涯のうち2人に1人がかかると言われていると知り、いかに早く見つけ、治療をするかが大切であることを改めて感じました。その中で、今回のがん対策推進計画は、がん検診の受診率向上に向けた取組みとして、がん検診の個別受診勧奨や無料クーポン券配布があり、受診率は上がるように感じました。特に、サンデーレディース検診は、自身も活用してみたいと思いました。婦人科検診は、健康診断と同じ日に予約することが難しく、なかなか平日に休みをとり、受診をしないため、日曜日に受診できることは、受診率が大きく改善されると感じました。	取組みに賛同していただきありがとうございます。がん検診の受診率向上に向けて、引き続き取組みを推進してまいります。	D

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	反映状況
37	がん検診の受診機会・受診勧奨について	女性にとっては乳がん、子宮頸がんという病気は身近なものになるので、静岡市で情報面、生活支援の面で市の体制が整っていると分かり、非常に心強く感じます。早期に発見をすることがその後の治療での結果にも繋がると思うので、受診勧奨や受診機会の増加に向けた取組を強めて頂けると有難いなと思います。	職場で受診機会のない市民を対象として、本市ではがん検診制度を設けており、より多くの方が受診できるように市内約300か所の医療機関・健診センターで受診が可能となっています。さらに、市内の公民館・学校等の施設でがん検診を受診できるように検診車も巡回しております。検診制度は毎年4月に「健診まるわかりガイド」を全戸配布しているほか市ホームページにも掲載しています。	D
38	がん検診の受診機会について	早期発見は毎月がん検診を受診するくらいではないと実際は難しいと考える。市民に対する検診料の補助などの充実が生活習慣の改善にもつながるのではないかとと思う。	静岡市では、職場でがん検診を受けられない等、日頃がん検診の受診機会がない方のために胃がん(X線・内視鏡)検診、大腸がん検診、乳がん検診、子宮頸がん検診、肺がん検診、前立腺がん検診が受診出来る制度があり、これらは概ね国の指針に沿って運用しています。	B
39	がん検診の受診機会について	「ガン検診」がおっくうに思ってしまう。気安い思いで受診できるようにしてほしい。	また、本市のがん検診の受診環境は市内約300か所の医療機関・健診センターで受診が可能となっています。	
40	がん検診の受診機会について	がん検診が全市民確実に受けられるように、学校や地域等で簡単に受けられるシステムを作ってほしい	さらに、市内の公民館・学校等の施設でがん検診を受診出来るように検診車も巡回しております。毎年4月に「健診まるわかりガイド」を全戸配布していますので、そちらを参照して頂ければと思います。	
41	がん検診の受診機会について	早期発見するために定期的で公的ながん検診が必要	なお、市のがん検診は公費で補助しているため安く受診できる仕組みになっています。	
42	がん検診の受診機会について	市のがん検診が少なくなり、受ける機会が減った(昔は多かった)ので増やしてほしい		
43	がん検診の受診率向上について	がんの種類によっては早期発見により治療できるというのが、図で分かりやすく説明できていると思います。市民皆さんの意識づけにつながり受診率が上がればいいですね。	計画案の趣旨をご理解いただきありがとうございます。がん検診の受診率向上に向けて、引き続き取組みを推進してまいります。	D
44	がん検診の受診率向上について	生涯のうち、約2人に1人はがんにかかると推計されているの中で、がん検診の受診率を向上し、早期発見すれば治療ができるため、受診率向上に向けた施策は重要であると思います。	計画案に賛同していただきありがとうございます。がん検診の受診率向上に向けて、引き続き取組みを推進してまいります。	D

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	反映状況
45	がん検診の費用について	無料クーポンで受診(検査)料を免除、助成できるが、毎年受けている(積極的な)方に対しても、検診(健康管理)に対しても、助成をしてもらえると嬉しい。 子宮頸がん、乳がんについては、H28までは過去5年間未受診者は無償、たしか子宮頸がんは2年受けていない方は千〇いくらか助成されていた気がします。しかし、毎年受ける方は全額自費だったと思います。	無料クーポン券は、子宮頸がん検診は20歳の方、乳がん検診は40歳の方に無料クーポン券を送付しております。 また、乳がん検診、子宮頸がん検診は、国が自治体あてに示しているガイドラインに則り、2年に1度の受診機会を設けております。	C
46	がん検診の費用対効果について	がん検診受診率を上げるのってそこまで重要とは思いません。 確かに欧米では受診率高いですが、それは習慣になっているからです。日本にはそういう習慣がないというだけです。 マスクも日本人は元々つける習慣があったので、欧米人よりマスクを着けていた結果、コロナの感染者数が欧米と比較して低かった。 習慣を変えるのは難しいことであり、勧奨ハガキなどに税金を使ってほしくないです。 健康は自己責任で、医療費の本人負担を増加させるほうが、ほかの病気に対しても効果的だと思います。	健康増進法は、国民の責務として、生涯にわたって自らの健康状態を自覚するとともに、健康の増進に努めなければならないとして、自己管理の重要性について規定しているとともに、自治体の責務として健康増進に関する知識の普及啓発及びがんをはじめとする各種検診業務の推進をうたっており、本市でも、法の趣旨にのっとり施策を実施しております。 がんの早期発見は、死亡率を減少させるとともに、社会全体の医療費の抑制につながりますので今後ともがん検診の受診を広く周知していきたいと考えています。	E
47	がん検診の受診率向上について	新型コロナウイルスの影響で、医療施設に出向いて、がん検診を受けることに二の足を踏む人も少なからずいると思います。現状では、罹患数・死亡率とも、がんの方がコロナよりも多く、ウイズコロナ下でも、がんの早期発見は大切です。 すべての市民が定期的かつ分散して検診を受けられる体制があること、自身の健康や、がんについて考えるきっかけが多くあることが、がん対策につながると思います。	本市では緊急事態宣言発令期間を除いてがん検診を通常どおり実施しており、総合病院や健診センターなどにも感染予防に十分留意した上で実施するようお願いをしております。	E
48	検診制度について	計画(案)はそのままよいと思います。歯科医院は苦手という方も多いと思いますが、かかりつけ医をつくり定期検診をすすめるような取り組みをするといいかないと思います。	静岡市では、令和3年3月に「静岡市歯と口腔の健康づくり推進計画(仮称)」を策定予定であり、その中では「かかりつけ歯科医を持っている者の割合」を指標に定めて取組を推進していきます。	E

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	反映状況
49	成果指標について	成果指標の目標は、大腸がん検診だけ25.4%なのではないでしょうか。全がんとも25.4%なのではないでしょうか。異なるならそれぞれの指標を示してください。	各がん種の検診受診率の目標は計画書本編40ページに記載しております。胃がん検診、大腸がん検診、肺がん検診、乳がん検診、子宮頸がん検診の5大がんでそれぞれ指標を設けております。	E
第4章小分野「がん教育によるがん予防の充実」に関するご意見				
50	がん教育推進協議会の開催について	がん教育によるがん予防の充実の取組内容に「がん教育推進協議会の開催」と記載されていますが、取組内容のとらえ方が、その前の予防部分とは異なるように思います。授業時間を増やすとか、そういった内容は盛り込めないのでしょうか？	学校ではがん教育に関する専門家が不在のため、専門家との協議会を開催することで、がん教育の推進への協力を仰ぎ、連携することががん予防につながる教育の充実の第一歩と考えております。専門家の方々の御理解と御協力を得ながら取組を進めてまいります。	C
51	外部講師を活用した「がんに関する授業」の実施について	文部科学省が実施した「平成29年度におけるがん教育実施状況調査」によると、外部講師を活用してがん教育を実施した学校は全体の12.6%に留まっている。静岡市では、この計画策定を期にがん教育を希望する学校全てに対して、外部講師(専門家)を派遣できるような体制を整えてもらえるとうよいと思います。	現在、希望する学校に外部講師を派遣しております。	B
52	外部講師を活用した「がんに関する授業」の実施について	中学生は「生徒」と呼ぶが、小学生は「児童」と呼ぶので、併記すべきではないか	中学校及び高等学校においては学習指導要領が改訂され、がんについて授業で扱うこととなります。一方、小学校では授業でがんについて扱うこととはなっていないため、健康教育の一環として学校保健委員会等で外部講師の活用をしていくことを検討してまいります。	E

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	反映状況
第4章大分野「がん患者等の支援の充実」に関するご意見				
53	がん患者等の支援の充実について	<p>・がん治療と仕事の両立(がんのために仕事を辞めなくてすむような、休暇制度経済的支援)等を充実させる P50 イ</p> <p>・小児・AYAのがん治療と学業との両立(治療中の教育の充実)P54 ア</p> <p>・サバイバーへの支援(治療履歴(がん手帳のようなもの)の患者への提供…その後のスムーズな病院受診のため)(小児がんサバイバーの成人医療へのスムーズな移行)</p>	<p>・現状では、がんに特化して法律で義務付けられた休暇制度はありませんが、会社によっては独自の休暇制度を定めているところもありますので、そうした企業が増えるような働きかけが必要だと考えております。また、生活費に関しては、公的助成等の制度がございますので、必要な方に制度の情報が届くよう取組を進めてまいります。</p> <p>・治療と学業との両立については、53ページに「病気療養児への教育」を掲載しております。</p> <p>・御指摘の「がん手帳のようなものによる治療履歴の提供」に関しては、国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センターが編著の「患者必携 わたしの療養手帳」という既存の資料がありますので、「つなぐ・支えるプロジェクト」の実施に当たり、その周知に取り組んでまいります。</p>	C
第4章小分野「相談体制・情報提供体制の充実に向けた取組」に関するご意見				
54	治療と仕事の両立支援について	<p>【相談体制・情報提供体制の充実に向けた取り組み】</p> <p>がんに罹患しても通院で治療が中心となる中で、治療と仕事が両立できるのかに不安を感じます。職場の理解やサポートを得ながら仕事を続けるのか、治療に専念するために休職するのか、判断に悩むと思うので、第三者的な立場で相談できる窓口があると安心できるかと思えます。</p>	<p>治療中の労働者の方向けの相談窓口として、市や労働局等が実施する窓口がございますので、その周知に取り組んでまいります。</p>	C
55	治療と仕事の両立支援について	<p>働いていたのがんになってしまい、退職に繋がった方は静岡市では何人くらいいるのでしょうか。都市部や地方都市、田舎によって集まる業種も異なると思うのですが…。静岡市の表ものつけて下さい。</p>	<p>静岡市においてがんと診断された後に退職につながった方的人数について調査した資料がなく、静岡市ではその人数について把握しておりません。</p>	E
56	治療と仕事の両立支援について	<p>がんの治療をしながら生活するために仕事もしなければならぬ人が多いと聞きます。社会みんなで支え合えるしくみができればよいと思います。</p>	<p>計画案の趣旨に賛同していただきありがとうございます。</p>	D

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	反映状況
57	治療と仕事の両立支援について	特に働き盛りの世代のがん治療と仕事の両立ができるような支援が必要だと思う。治療中の人々が休暇を取りやすく、仕事の融通を効かせてもらい堂々と続けられるよう会社に促してほしい。	「つなぐ・支えるプロジェクト」において、自分らしく働く環境を普及啓発するために、事業者向けセミナーの実施に向けた検討をしております。	B
58	治療と仕事の両立支援について	がんと診断されると定期的な通院が必要となる。1か月おきや3か月おきとなると仕事の休みをとりにくくなる。年次休暇がないと欠勤となり、その分給与が支給されない。がん治療で医療費がかかることが多いため、通院しやすくなるよう給与にひびかない休暇制度があると良いと思う。年齢が若いとなおさら生活苦になってしまうと思う。	現状では、がんの特化して法律で義務付けられた休暇制度はありませんが、会社によっては独自の休暇制度を定めているところもありますので、そうした企業が増えるような働きかけが必要だと考えております。また、生活費に関しては、公的助成等の制度がございますので、必要な方に制度の情報が届くよう取組を進めてまいります。	C
59	治療と仕事の両立支援について	がんに罹患した後の社会支援の必要性は強く感じます。治療と仕事が両立できるように社会全体の支援体制が整うとよいと思います。	計画案の趣旨に賛同していただきありがとうございます。御指摘のように治療と仕事が両立できる社会全体の支援体制が整うよう取組を進めてまいります。	D
60	相談体制について	仕事を平日にしているとなかなか実際に相談することが難しい。土・日でも相談が気軽にできるとよい。	静岡市の実施する労働相談は平日夜間の時間帯も対応しており、また医療に関する相談対応等を実施する医療安全支援センター「ほっとはあと」では時間に関わらずメール相談を受け付けております。相談窓口に関する情報が必要な方に届くよう取組を進めてまいります。	C
61	相談体制・情報提供体制について	(3)身近でがん患者の方との話しの中で、知りたい情報(例えばウィッグの購入等)、働きながら治療する事の厳しさ等を耳にするので、相談、情報提供については、必要な取り組みだと思えます。	計画案の内容に賛同していただきありがとうございます。	D
62	情報提供体制について	がんは私たちにとって身近な病気であり、普段の生活習慣を丁寧にしても罹ってしまうリスクのある病気であり、注意の必要があるとデータから分かった。こうしたがんに関するデータを出して頂くことでがんが身近となり、何かが起こってもすぐに支援を行ってもらえる体制が静岡市にあることが分かり、安心した。今後もこうした情報を発信頂けると市民の方も安心出来るかと思うので、支援体制の整備と共に取組を強めて頂けると有難いです。	計画案の内容に賛同していただきありがとうございます。今後も引き続き適切な情報発信に取り組んでまいります。	D

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	反映状況
63	情報提供体制について	がん患者はわらにもすがの思いで、あやしい民間療法等に頼ってしまうことが多々あります。悪徳な商法にだまされないように、正しい知識の周知をお願いしたいです。	がん患者に正しい医療情報を普及啓発することは重要だと認識しており、「つなぐ・支えるプロジェクト」において作成予定のガイドブックの内容の検討に際し参考にさせていただきます。	C
64	情報提供体制について	大きな手術や後遺症が出るような化学療法を受けた患者さん(または、これから受ける人)は、職場の支援がどうしても必要になると思いますが、コロナ禍で経済がダメージを受けている昨今、職場の支援が望めない方が多数出てくるのではないかと憂慮しています。そういう方たちに「こういう公的支援があるよ」とか「他の人はこんな工夫をしているよ」という情報がすぐ届くようにしてほしいです。	御指摘のとおり公的支援等を情報発信することは重要であると認識しており、「つなぐ・支えるプロジェクト」において支援が必要な人に情報が届くように取組を推進してまいります。	C
65	情報提供体制について	口腔内が全身に関係あることをもっと知らせた方がいいと思う	情報発信に際してご意見を参考に取組を進めてまいります。	C
66	事業名について	市政出前講座「賢い患者になるために」という名称はどうなのでしょう。私もがん患者ですが、私は賢くないと言われてるように感じます。	主体的に納得のいく医療を受けていただきたいという思いで講座を行っております。今後、多くの市民の方に選んでいただけるような名称を検討したいと思います。	C
第4章小分野「若年がん患者・在宅医療等への支援」に関するご意見				
67	介護保険制度について	様々な事情があり、一人暮らしをしながら治療を続けていますが、コロナなど急遽入院などになった時、家族は高齢で関東県内なので頼ることも出来ないと思います。40歳以下も事情により介護保険を使えるようにしてほしいです。	現状では、介護保険法に基づき要介護者・要支援者として認定される方は40歳以上に限られておりますが、本市としましては、一定の要件を満たす40歳未満のがん患者さんが居宅サービス等を利用する費用に対して助成する事業を令和2年度から開始しております。	C
68	がん患者の家族に対する支援について	がんを罹患された方は当然大変ですが、それを最も近くで支える方に対する支援は何か盛り込んでくれるのでしょうか。	基本目標に「がん患者とその家族が地域で安心して暮らしていけるまちづくり」を掲げており、ご家族に対する支援についても取組を進めてまいります。取組としては、がん患者ご本人だけでなくご家族からの相談にも対応する相談支援事業や、在宅療養生活を行うがん患者の生計を維持するご家族に対し、居宅サービス等を利用する費用に対して助成する事業等を掲載しております。	B

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	反映状況
69	がん患者の家族に対する支援について	<p>・闘病しながら子育てしていたり、治療中の親を持つ子供への支援が必要です。子育て支援(ふあみさぼ)の補助や通院補助など(ケモ中は運転できない人もいる)、今ある支援を使いやすくしてほしいです。</p> <p>・子どもに対する支援も必要です。メンタル面のフォローなど、保育園や学校とつながりを持てるよう橋わたしとなる役割があると安心だと思います。ただでさえ子育てで大変なのに「闘病」が入ってくると、想像以上の負担を持っている方がたくさんいらっしゃると思います。</p>	<p>・闘病しながら子育てをしている方などは時間に余裕がないと考えられるため、支援を使いやすくすることは重要であると考えております。そのため、押印の廃止・手続きの簡素化等に向け検討を進めてまいります。</p> <p>・子どもに対する支援に関しては、病気療養児への対応をする中で、メンタル面のフォローを含めて実施するよう今後の取組の参考といたします。</p>	C
70	緩和ケアについて	<p>がんの緩和ケアで必要なのはがんの診断時から治療と緩和ケアが並行して行うことが必要だと思います。期待することは早期からの緩和ケアとして、患者さん本人だけでなく家族にも相談できる体制・支援を提供することが必要だと思います。</p>	<p>がん相談支援センター等により本人だけでなく家族も相談できる体制は整っておりますので、「つなぐ・支えるプロジェクト」において情報発信し、支援が必要な人を相談支援につなげてまいります。</p>	C
71	緩和ケアについて	<p>がん患者の支援については、緩和ケアの充実を望みます。医療が進んでも抗がん剤の後遺症は周囲が考える以上に患者本人の心身をむしばんでいます。</p>	<p>緩和ケアは、身体的な苦痛、精神的な苦痛などを軽減する目的の行為であると言われております。抗がん剤による副作用・後遺症等の直接的な身体的苦痛の軽減については、医療技術の更なる進歩が期待されるようですが、本市としては「つなぐ・支えるプロジェクト」を通じて、治療に関する正しい知識の普及啓発や相談支援の充実により、精神的な苦痛・社会生活上の不安の軽減等に取り組んでまいります。</p>	C
72	在宅療養生活について	<p>末期での自宅での過ごし方 どんなふうに体が弱っていくのか？ 家族はどんなふうに接すれば良いのか？ 疼痛コントロール</p>	<p>「つなぐ・支えるプロジェクト」等において、情報発信する内容の検討に際し参考にさせていただきます。</p> <p>なお、がんの診断から在宅緩和ケア・看取りまで、病院と診療所が連携してがん患者さんを支える「S-NET」という取組があるため、54ページにその取組を紹介するコラムを追記しました。</p>	A

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	反映状況
73	こどもホスピスについて	小児がん、脳性麻痺などの難病や障がいを抱えたこどもの終末期の痛みを和らげるだけでなく、看護に疲れた家族の休息のためにこどもを一時的に預かる場などを提供する福祉施設のことを「こどもホスピス」と言います。先日、読売テレビが大阪の「こどもホスピス」を特集したところ大きな反響があり、また、YouTubeの動画では急上昇2位となり100万再生以上になっています。静岡市でも、関係者と話し合いを持ち、この計画策定の機会にこどもホスピス設立をして下さい。	小児がん患者等の一時預かりの場を設けることは、ご家族の介護・看護疲れの緩和や慶弔行事へ参加しやすい環境整備のために大切であると認識しており、これまでも一定の要件を満たす障がい児等(小児がん患者を含む)を受け入れる体制の整備等に取り組んでまいりました。いただいたご意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。	C
74	診療体制について	これから立て直す桜ヶ丘病院を、がん拠点病院にして下さい。	桜ヶ丘病院の診療機能については、市と桜ヶ丘病院の運営母体であるJCHOとで締結した協定において、行政や地域の関係者等と連携して地域のニーズを踏まえ、病院の人的体制・物的整備を含め総合的に判断した上で、JCHOが決定することとしております。	C
75	診療体制について	総合病院と診療所の連携を密にして頻回の受診は近くの診療所のできるようにしてほしい	医療機関の機能分化・連携については、静岡県保健医療計画において、圏域の地域医療協議会等で関係者と検討を進めることとされています。本市も会議のメンバーであることから、県等と連携して検討を進めてまいります。 なお、市内には病院と診療所が連携してがん患者さんの診療をする「S-NET」という取組があるため、54ページにその取組を紹介するコラムを追記しました。	A
76	小児がん患者の自宅での看取りについて	高齢者に対する自宅での看取りは幅広く注目されていますが、がんを持つ子供に対する在宅看取りは少ないです。しかし、少ないですが、先進的に取り組んでいる市町もあります。静岡市は計画策定をする中で、そういったものにも取り組んで下さい。	御指摘のとおり、高齢者だけでなく小児・AYA世代における在宅療養生活への支援も大切であると認識しております。本市では、一定の要件を満たす40歳未満のがん患者さんが居宅サービス等を利用する費用に対して助成する事業を令和2年度から開始しており、こうした事業を通じて、引き続き小児・AYA世代における在宅療養生活への支援に取り組んでまいります。	B

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	反映状況
77	病気療養児への対応について	取組内容の「病気療養児への対応」と書いてありますが、あまりにも事業概要がおおまかすぎて結局何もやってくれないように思います。小児がん患者への支援を目に見える形でやって頂くようどうかよろしく願いいたします。	ご意見を踏まえ、53ページの事業名を「病気療養児への教育」に変更し、さらに「病気で療養している子どもを対象に病院内等で教育を行うなど」と追記します。	A
78	病気療養児への対応について	具体的に何やっているのか、何をしてくれるのか教えてほしい	病気療養児への教育の機会の保障として、県立特別支援学校により、静岡県立こども病院等に入院している子どもなどを対象に、病院内等において小・中学校に準じた教育が行われています。	E
第4章「つなぐ・支えるプロジェクト」に関するご意見				
79	がんサバイバー交流会の場の提供について	概要資料を見てもみると、がん体験者が求める情報や支援の第1位は、体験者や同病者との交流と書いてあります。そのために「がんサバイバー交流会の場の提供」と書いてありますが、具体的に何をしてくれるのか分かりません。計画案も見ましたが、何も書いてありません。本当に、行政が音頭をとってやってくれるのでしょうか。	17ページの施策の体系に「つなぐ・支えるプロジェクト」を位置づけ、55ページに新たな事業を実施していくことについて追記しました。 なお、御指摘の取組については、静岡庁舎内の会議室等の会場を提供したり、交流会の情報発信をしたりすることを想定して記載したものです。具体的な運用については、静岡市がん対策推進協議会のご意見等を取り入れながら検討を進めてまいります。	A
80	つなぐ・支えるプロジェクトについて	計画の中に掲載されている、静岡市「つなぐ・支えるプロジェクト」はとても素晴らしいことだと思いますが、静岡市が架け橋となってがん患者とその家族を支援に繋いでいくと書いてあるので、それを取組内容の部分にも書いてください。	17ページの施策の体系に「つなぐ・支えるプロジェクト」を位置づけ、55ページに新たな事業を実施していくことについて追記しました。 なお、「つなぐ・支えるプロジェクト」は新規に立ち上げるプロジェクトであるため、具体的な運用については、静岡市がん対策推進協議会のご意見等を取り入れながら検討を進めてまいります。	A
81	特設ページについて	私の祖父ががんに罹患したことがあり「静岡市 がん患者 相談」と検索しても、静岡県のページや病院のページは出てくるが静岡市の相談機関一覧の分かるページがない。 特設ページと書いてあるが、そのホームページをどのように周知していくのか、どういった内容を掲載してあるのかを計画に書いて欲しい。	特設ページは令和3年度中に開設予定であり、内容については、来年度作成する予定のガイドブックや、市内の相談窓口一覧等の掲載をイメージしており、また随時充実させていきたいと考えております。ホームページのコンテンツや周知手法については、静岡市がん対策推進協議会のご意見等を取り入れながら検討を進めてまいります。	C

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	反映状況
82	特設ページについて	体験談、同病者との交流や情報提供や相談は直接というのももちろんですが、インターネット等を通じての取組も推進していただきたいと思ひます。分かりやすく、誰でもすぐにアクセスできるようなHPなどがあると思ひます。既にあるようであれば、あることのPR等が重要だと思ひます。	御指摘のとおりインターネットを通じた取組も重要であると認識しており、今後がんに関する特設ページを創設する予定ですので、ご意見は情報発信にあたり参考とさせていただきます。	C
83	特設ページについて	各病院が力を入れている治療・がんの種類紹介HP。どの病院にかかればいいのか、治療内容を知りたい。	御指摘のとおり医療機関に関する情報発信は重要であると認識しておりますので、「つなぐ・支えるプロジェクト」の実施にあたり参考にさせていただきます。	C
84	リーフレットの作成について	AYA世代の人たちはがんと診断された時、検査や治療に専念していくわけですが、そのこと以外の情報(保険や助成等の制度、支援体制も)を知る機会がなく、1人(もしくは家族単位)で抱え込む場合が多いと感じます。窓口として手引きできるような物と、各関係者の体制づくりが必要と思われまひます。	御指摘のように患者さんご本人やご家族が使用できる「手引き」が必要だと考えており、今後がん患者さん向けのガイドブックを作成する予定です。また、その活用にあたっては関係機関が連携できるよう、ご意見を参考に取組を進めてまいります。	C
新型コロナウイルス関係				
85	オンライン相談について	新型コロナウイルス感染症は、今年の2月から日本でも喫緊の課題として、様々な分野に大きな影響を及ぼしています。 計画の中では、コロナのことは全く触れないのですか。昨年作った計画であればコロナ禍のことは書けなくても致し方ないと思ひますが、このタイミングで作るのでなぜ入れないのかなど… 例えば、がん患者の相談窓口をオンラインで実施するなど、新しい生活様式に即した取組内容を入れて下さい。	オンライン相談については、例えば医療安全支援センター等において検討いたしましたが、過去の相談実績から、対面ではなく電話による相談を希望する方が多かつたため、計画への掲載を見送るといった経過がございました。新型コロナウイルスの感染拡大による社会情勢の変化は、予断を許さない状況が続いておりますので、社会情勢を注視し必要な対応をしまひります。	C
86	オンライン相談について	新型コロナウイルスの影響もあり、この1年の私たちの暮らしは大きく変わり、また、その生活スタイルが今後も続くであろうと考えまひます。 相談事業について、オンラインでの実施を促進するようなことはなさないのですか。		C

番号	ご意見のタイトル	ご意見	事務局の考え	反映状況
87	コロナ禍における計画策定について	新型コロナウイルスの感染が拡大しており、日本や世界が混沌としている最中で計画を作ることに違和感を覚える。6年後を予見するのは難しいと思う。	御指摘のとおり、新型コロナウイルスの感染拡大による社会情勢の変化は、予断を許さない状況が続いておりますので、社会情勢を注視し必要な対応をしております。なお、計画の推進に当たり、計画期間の中間年度に中間評価を実施する予定です。	C
88	死因と新型コロナウイルスとの関係性について	現在、市内の総合病院で医師をしている者です。人間が死を迎える際に何の原因によって亡くなったのかを示すのが死因ですが、これは非常に難しいことです。がんと肺炎を併発して亡くなった場合の死因。がん罹患中に脳梗塞で亡くなった場合の死因。これらは、非常に難しい判断です。そうした中で、今般流行している新型コロナウイルス感染症では、長い間がんに罹患して衰弱し死亡後のPCR検査で陽性反応が検出されれば、死因は「COVID-19」になります。これは、国から正式な通達が出ています。現状、国内のCOVID-19による死亡者数は少ないですが、今後増加した場合、「図9 日本の死亡原因におけるがんの割合」が変わってくるかもしれません。そうした時に、市町村の行政の方がこういった事実を知ることが大切です。	専門的な見地からの確なアドバイスをいただきましてありがとうございます。今後、死亡原因におけるがんの割合等を施策の参考にする際には、いただいたアドバイスを踏まえて検討を進めてまいります。	C
その他				
89	その他	私、平成5年に大腸ガン手術しました。早期に手術して27年になりました(満85才)。早く決心すると良いと思います。	市民の皆さんに対する励ましの声をいただきありがとうございます。「つなぐ・支えるプロジェクト」等を通じて、すべての市民がその人の病状に合った適切な治療を受けられるよう情報発信してまいります。	E